

トピックス

核融合エネルギーフォーラム活動報告（要旨）

運営会議報告

運営会議委員(原子力機構客員研究員) 松田慎三郎



核融合エネルギーフォーラムは今年で4年目となります。この核融合エネルギーフォーラムの位置づけとしましては、ITER計画とBA活動、関連する核融合エネルギーの研究・技術開発に対する推進、および核融合エネルギーへの理解増進等があり、それらを目的として活動しております。当初は核融合フォーラムという名称で発足し、今年度で8年が経過しました。全体会合は、大凡年1度のペースで開催されていますが、2007年度に核融合エネルギーフォーラムに改組して以来、今回で第4回となります。会員状況としましては、2002年度末においては会員数は219人でしたが、今年3月現在で637人となり、順調に増加し続けています。また、会員を年代別に見た場合、20代から80代まで幅広い年代で構成されており、特に、20～40代の世代についても年を追うごとにその会員数は増加し、現在50%を越えています(図1)。

しかしながら、これらの世代については、今後ともより多くの入会が望まれるところです。クラスター別に見ても、社会と核融合、プラズマ物理、炉工学の各分野が大変バランスの良い分かれ方で構成されています。会員の所属先についても、大学、研究機関、産業界および一般と、大変幅広く参加いただいている状況です。

核融合エネルギーフォーラムとなってからの歴史としましては、第1回会合では、「核融合エネルギーとITERに関する国際フォーラム」として、ITER機構長の池田要氏や、ITER理事会議長(当時)のC.ロウエリスミス氏らによる講演が行われ、有馬朗人元文部大臣も参加して活発な議論が行われました。第2回会合では、ITER機構発足記念シンポジウムやパネル討論等を行いました。第3回会合では、「科学技術計画におけるグローバリズムとナショナリズム」を主題として、ITER、ISS、ILCといった世界一流の選りすぐりの人たちが国際協力を進める、あるいは検討が進められている大型科学技術プロジェクトについて特別講演会を催しました。

3月12日に行われました運営会議の内容については、以前から提案のありました名誉会員の新設や顧問就任に関する規約改定などの承認が行われました。また、佐藤文隆議長が今年度で運営会議の議長を退かれることから、後任議長の選出が行われました。その結果、全会一致で後任議長は中島尚正氏(学校法人海陽学園海陽中等教育学校 校長)に決定し新年度より就任いただくこととなりました。併せて、佐藤議長が顧問に就任されることが決まりました(図2)。

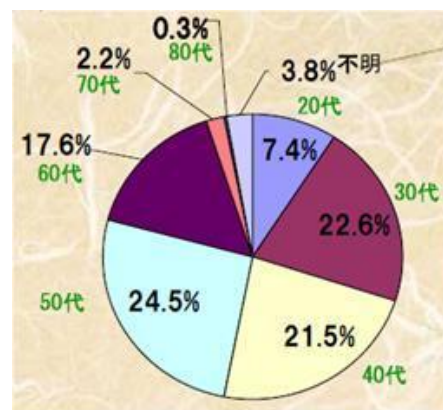


図1 年代別に見た会員数
(平成22年3月現在)



図2 3/12運営会議時における
中島尚正委員(左)と佐藤文隆議長(右)